

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	45	学校名	多治見工業高等学校
------	----	-----	-----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域の伝統産業教育を担う工業高校として 地域や企業、大学等と連携したキャリア教育と、専門知識と技術の修得を通して 将来の地域の産業を支えるための判断力や行動力を備えた人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	「正しく 強く 明るく」の校訓を体し、豊かな人間性と創造性に富む実践力のある人材の育成を図る	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的・職業的自立に向け、必要となる基本的な専門的知識や技術とともに、態度を身に付けた生徒</li> <li>生涯にわたって自ら学び、自ら考え行動し、主体的に社会と関わりながら、産業の発展に貢献できる生徒</li> <li>多様な人格を尊重し、他者との協働の中で、社会の一員としての自覚と責任を果たす生徒</li> </ul>
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教科において、職業人として必要な資質や能力の育成を目指した授業を実施</li> <li>主体的に考え、判断し、行動できる力の基になる人間性をはぐくみコミュニケーション能力、自己表現力を高める教育活動の推進</li> <li>地域との連携を深め、課題発見力や課題解決力を育成するなど、実践的・体験的な学習を通じたキャリア教育の推進</li> </ul>
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣が身に付いており、向上心を持って、継続的に学習に取り組むことができる生徒</li> <li>ものづくりに興味があり、将来は工業の分野で活躍したいという意欲のある生徒</li> <li>部活動や生徒会活動、地域への活動に積極的に参加し、良好な人間関係を構築しながら、より良い学校生活を築いていこうという意欲のある生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習環境の整備：老朽化した校舎の改築、高度な技術・技能の習得に対応した施設設備の整備、実習室のエアコン整備など</li> <li>○ 教員の人材不足：専門教育を担う教員の確保、指導力向上のための研修の充実、欠員等による影響を最小限に抑えるための教育活動体制づくり</li> <li>○ キャリア教育の再構築：時代や社会のニーズに対応したキャリア教育の再構築</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	6時間の授業を大切にし、授業の中で社会人として必要とされる力を育成する
	教員研修	真に本校の教育力を高めるため、外部機関を利用した教員研修の充実
	安全管理	安全に学ぶ環境を整備し、安全教育理念を徹底できる体制の整備
	進路指導	生徒の視野を広げさせ、生徒自らが自分の将来のことを考え行動できる体制の強化

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	実践的・体験的学習を充実させ、本校の教育全体を通し3年間の成長が感じられる教育の実践	施策Ⅰ-1	○各種アンケート ○公開授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート「学校はものづくり教育や資格取得指導に力を入れ、生徒の力を伸ばす指導をしている」で、肯定群が生徒96%、保護者等89%と高い評価を得た。</li> <li>・小中学校への出前授業、地域イベントへの参加、異校種間交流、インターンシップ等、実践的・体験的学習活動を実施できた。</li> <li>・「タブレット端末活用に関する情報共有チーム」を立ち上げ『自律的学習態度』を含めた生涯学習の研究を進めた。</li> <li>・外部講師による様々な講演等を通して課題解決能力を養った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「先生の授業は丁寧でわかりやすい」「テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」生徒の肯定群が90%を超え、基礎的、汎用的能力の向上につながっている。</li> <li>○実践的・体験的学習活動が生徒自身のコミュニケーション能力等社会性の強化につながった。</li> <li>○外部講師による学習を各教科で取り入れ、生徒の判断力や行動力の育成につながった。</li> <li>▲タブレット端末を活用した学習活動について教科間で情報共有することができたが活用方法についてさらに深化させる必要がある。</li> <li>▲専門に関する学習で様々な工夫を行うが、最新の施設・設備の導入がなかなか進まない。</li> </ul>	B
	生涯にわたって学び続ける『自律的学習態度』を育てるための組織の設立・研究	施策Ⅱ-8	○課題研究発表会 ○教材開発				
	外部人材を活用した主権者教育・消費者教育の充実を図るなど、判断力や行動力の育成	施策Ⅱ-12	○学習環境整備				
教員研修	外部の教育力を活用した専門科の研修と教材の整備	施策Ⅱ-9	○各種アンケート ○外部の教育力の導入事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員によるセンター研修の受講申込者が延べ114人を数えた。また免許法認定講習会や特別支援教育支援士を受講等する職員も複数いた。</li> <li>・多様な生徒に対応した学びを支援するため「特別支援教育研修（インクルーシブ教育）」の全職員受講を実施することができた。</li> <li>・所属のストレスチェックの結果から「職場の対人関係上のストレスが少ない」「同僚や上司からの支援が高い」傾向があった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの教員が意欲的にセンター研修や検定の受検など自己研鑽に努めた。また、研修成果を職員や生徒に還元することができた。</li> <li>○各分掌長を中心に効率的、協働的な職場環境づくりに努め、業務の分担や業務が集中しない月などで平準化を図る取組みを進めた。</li> <li>▲生徒の学びを支援するために、AIの活用等教員の専門性を高めるための研修等の必要性である。</li> <li>▲頑張りすぎる傾向がある教職員の疲労感を、休日や年休等を活用して、積極的なリフレッシュができるよう学校全体で推進する必要がある。</li> </ul>	B
	将来を見据えた学校づくりにおいて、中心的な役割を担う人材の育成	施策Ⅳ-20	○職員研修実績 ○研究授業				
	多様な生徒に対応した学びを支援するため、教員の専門性の向上を目指した研修会の実施	施策Ⅳ-21					
	教職員の確保とともに、効率的、協働的な職場意識の醸成	施策Ⅳ-26					
安全管理	教育相談の更なる充実と外部の関係機関と連携した組織体制の強化	施策Ⅰ-3	○各種アンケート ○安全教育指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談担当職員を中心に外部と連携し、通級指導、医療連携、特別支援教育のセンター的機能等を活用し助言を受けた。</li> <li>・ものづくり教育において「安全作業マニュアル作成」等安全管理を進めることができ、多工祭の開始時には全校生徒に対して、教員による安全教育（高所作業の安全徹底等）を実施することができた。</li> <li>・企業見学时に安全教育の実施や企業の方のアドバイスを得ることができた。また「地域課題探求型学習推進事業（地域の担い手型）」等も活用しながら安全教育の推進を深めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部機関との適切な連携が、生徒の健全な成長につながり、また教職員の大きな学びとなっている。引続き外部機関と連携した体制を強化していく。</li> <li>○安全作業マニュアルや標識の製作等を通して、生徒・教職員ともに安全意識が高まった。</li> <li>▲他校の「地域課題探究型学習推進事業」の取組みを参考にしながら、来年度以降、本校のより良い安全教育推進につなげていきたい。</li> </ul>	B
	本校独自の「安全標識の製作」を通じ、安全第一を強く意識した人材の育成	施策Ⅱ-14	○外部評価 ○安全教育・安全研修実施				
	安全教育指針の改正や企業見学时の安全教育の必修化など、外部機関と連携した安全教育の推進	施策Ⅲ-19					
進路指導	企業や地域の理解の下、社会全体で生徒の育成を支援する取組の推進	施策Ⅰ-7	○各種アンケート ○求人倍率、内定率等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート「学校はインターンシップや講演会などの進路意識を高めるため、きめ細かい進路指導をしている」で、肯定群が生徒90%、保護者等75%と高い評価を得た。</li> <li>・インターンシップをはじめ、企業の協力を得てキャリア教育の充実が努めることができた。</li> <li>・昨年度に続き求人倍率が30倍を超え、産業界からの期待が高い。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価アンケートの進路指導に関する項目全てで、肯定的な意見が得られ、特に学校独自項目では昨年比生徒+7%、保護者等+12%の評価が得られた。職業教育を軸とし特別活動を要としつつ体系的、系統的なキャリア教育の充実をさらに進め、引続きキャリア教育の強化に努めていきたい。</li> <li>▲「学校運営協議会」「地域の担い手育成協議会」等から得られた意見を踏まえ、進路指導部と工業部が中心となり、各行事や学習活動を関連付けたキャリア教育全体計画を引続き検討する。</li> </ul>	B
	生徒の現状や身につけさせたい資質・能力を踏まえたキャリア教育全体計画の再検討	施策Ⅱ-13	○インターンシップ参加率 ○企業連携・講習会				
	地域の産業界や関係機関と連携したキャリア教育の実践	施策Ⅱ-14	○進路支援体制の見直し				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月13日

- ・学校評価アンケートで、生徒23項目中、肯定群8割超の項目が18項目、保護者等25項目中、肯定群8割超の項目が16項目と高い評価を得たが、一部で6～7割程度の項目があった。担当する分掌で検討し改善を図っていく。
- ・学習指導において、タブレット端末活用の充実を図り、ICTを用いた「主体的で対話的な深い学びを体現する授業」の研究開発を進め「自律的学習態度」を育てるための方策について取組んでいく。
- ・「地域担い手推進事業」を中心に、企業などの外部機関と連携した安全管理や進路指導の充実を図り、体験的学習、協働的学習を通して、知識から知恵へ、応用力や実践力を備えた生徒育成と同時に、安全教育を進めていく。
- ・より質の高い授業を実施するために学習環境を整え、教職員の専門性を高め指導力を向上させるための研修に学校全体で取組んでいく。
- ・多様性の生徒への対応を外部機関と連携し、また専門教育を軸に各行事と関連付けながら学ぶ意義を理解するための魅力ある学校づくりを工夫していく。
- ・基礎的・汎用的能力の向上を目指し、学校の社会的役割の観点から地域全体で生徒を育てることを含め、キャリア教育全体計画を再検討する。
- ・希望する進路の実現のため、進学指導を含めた個別最適の支援体制を構築する。

学校関係者評価

実施日：令和8年1月23日

- ・学習指導において、課題研究のような主体的で対話的な授業は非常にすばらしく、最終的によい作品が完成していた。実践的・体験的学習を充実させ、協働して問題解決に取り組む授業について、今後も継続して行ってほしい。
- ・海外インターンシップでは地元企業と連携するなど非常によい取組みである。参加生徒を前年度より増やすことができたが、できるだけ多くの生徒に参加の機会をあたえてほしい。
- ・安全教育で作成した「安全マニュアル」は非常によい。工業高校で安全が一番大切な部分なのでしっかり活用してほしい。
- ・所属のストレスチェックで「職場の対人関係上のストレスが少ない」傾向は、生徒の「学校生活が楽しい」につながる。教職員の学校業務は忙しいが、よりよい職場作りに努めてほしい。
- ・出前授業等、地域へのPRは必要であり機会を増やすとよいが、担当職員・生徒の負担も増えるので、続けられる方法を今後も検討して行ってほしい。
- ・夏休みには多くの中学生が本校を見学に来た。教職員の取組みが評価を得て、地域で大切な学校になっている。
- ・道路交通法が厳しくなるなど社会の変化に対しては、警察に協力を得るなど外部機関と連携していくことが必要である。
- ・地域の大学等と連携し、例えばものづくり教育のような本校生徒が継続できる体制を取り入れてもらえると、卒業生が引き続き地元に残り、将来的に多治見を背負ってくれる人材育成につながる。